２０２５年（令和７年）　９月１５日　月曜日
東奥日報　１４面　掲載

光星・北口 1失点完投

新谷翔の左中間を破る適時二塁打に敵失が絡んで2点を奪った。先発のエース北口は打たせて取る投球で被安打4、1失点完投。

弘学聖愛は三回途中から救援したエース水木が2点を奪った。五回に葛西の本塁打で1点をかえしたものの、終始打線がつながらなかった。

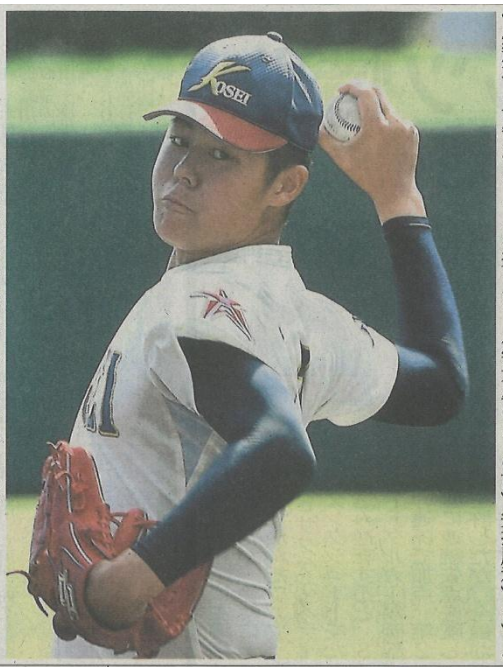
97球 反撃の隙与えず

【評】八学光星が序盤のリードを守り切った。三回、佐々木の安打などで無死一、二塁とすると、最後の打者を左飛に仕留めると、雄たけびを上げ、ガッツポーズで喜びを表した。八学光星のエース北口はわずか97球で弘学聖愛打線を封じ「応援しに来てくれた3年生の前で完投勝利できてよかった」とほっとした表情を浮かべた。

「三振を狙わず、フライアウトで打ち取る」と、初回から140㌔近い直球で打球を詰まらせ、四回まで無安打無得点。五回に痛恨の一発を浴びたが「逆に気が引き締まった」。以降は変化球を効果的に織り交ぜて散発3安打に抑え、反撃の隙を与えなかった。

この試合は今夏の青森大会決勝と同カード。この試合で2年生ながら先発したが、体力不足のため7回で降板し、結局チームは逆転負けを喫した。この悔しさをバネに練習試合を重ね、完投する体力をつけてきた。仲井監督は「彼なりに悔しさと反省をしっかり生かしてくれた」と奮闘をたたえた。

2人いる主将の一人。「しんどさはない。自分がマウンドからチームを引っ張っていく」。言葉に強い覚悟がにじんだ。（棟方好華）



【八学光星―弘学聖愛】弘学聖愛打線を4安打1失点に抑えた八学光星のエース北口＝長根

秋季 県高校野球 第6日

秋季東北地区高校野球県大会は第6日の14日、青森市の県営、八戸市長根公園、六戸メイプルの3球場で、3回戦と準々決勝の計5試合を行い、青森山田、八戸学院光星、八工大一の3校が4強入りを決めた。準々決勝では、青森山田が下山学園に快勝。八戸学院光星は弘前学院聖愛に、八工大一は東奥義塾にそれぞれ競り勝ち、準決勝に駒を進めた。前日の雨で順延となった3回戦の青森北―八戸西は、青森北が逆転勝ち。六回表からの継続試合となった弘前東―三本木は、弘前東が七回コールドで勝利した。第7日の15日は県営球場で、青森北―弘前東の準々決勝1試合を行う。（本紙取材班）

きょうの試合

（左のチームが一塁側）
◇県営
▷準々決勝
青森北―弘前東（12・30）

東奥日報社提供
この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです